

## 水道事業ガイドライン(JWWA Q 100)に基づく業務指標の算出結果(平成22年度)

静岡市上下水道

目

安心：すべての国民が安心しておいしく飲める水道水の供給

指標の  
見方



数値が大きいほうが良い



数値が小さい方が良い

### a 水資源の保全

コード	項目	定義(式)	指標値 平成22年度	単位	指標の 見方	備考
1001	水源利用率	$(\text{一日平均配水量} / \text{確保している水源水量}) \times 100$	61.9	%	↑	水源のゆとり度や効率性を表す 比率は高いほうが効率的だが、湧水に対してはゆとりが必要
1002	水源余裕率	$[(\text{確保している水源水量} / \text{一日最大配水量}) - 1] \times 100$	43.2	%	↑	水源のゆとり度や効率性を表す 湧水時には全量取水ができないのでゆとりが必要
1003	原水有効利用率	$(\text{年間有効水量} / \text{年間取水量}) \times 100$	92.3	%	↑	原水利用の有効性を表す
1004	自己保有水源率	$(\text{自己保有水源水量} / \text{全水源水量}) \times 100$	100.0	%	↑	水源運用の自由度を表す 湧水などの水の相互運用時に活用
1005	取水量1m3当たり 水源保全投資額	水源保全に投資した費用/その流域からの取水量	0.55	円/m <sup>3</sup>	↑	水源保全の取り組みに関する指標

安心：すべての国民が安心しておいしく飲める水道水の供給

b 水源から給水栓までの水質管理

コード	項目	定義 (式)	指標値 平成22年度	単位	指標の 見方	備考
1101	原水水質監視度	原水水質監視項目数	65	項目	↑	原水監視の取組状況を表す指標
1102	水質検査箇所密度	(水質検査採水箇所数/給水区域面積)×100	27.0	箇所/100Km <sup>2</sup>	↑	給水区域内で配水系統ごとの水質検査状況を表す指標
1103	連続自動水質監視度	(連続自動水質監視装置設置数/一日平均配水量)×1,000	0.160	台/(1000m <sup>3</sup> /日)	↑	連続自動水質監視装置による水質検査状況を表す指標
1104	水質基準不適合率	(水質基準不適合回数/全検査回数)×100	0.0	%	↓	取水場、浄水場、配水場で水質管理が適正に行われているかの指標
1105	カビ臭から見た おいしい水達成率	[(1-ジエオスミン最大濃度/水質基準値)+(1-2メチルイソボルネオール最大濃度/水質基準値)]/2×100	90	%	↑	水道水のおいしさを示す指標の一つ
1106	塩素臭から見た おいしい水達成率	[1-(年間残留塩素最大濃度-残留塩素水質管理目標値)/残留塩素水質管理目標値]×100	55	%	↑	水道水のおいしさを示す指標の一つ
1107	総トリハロメタン濃度水質 基準比	(総トリハロメタン最大濃度/総トリハロメタン濃度水質基準値)×100	21	%	↓	より安全な水を供給するための指標の一つ
1108	有機物(TOC)濃度水質基準 比	(有機物最大濃度/有機物水質基準値)×100	20	%	↓	より安全でおいしい水を供給するための指標の一つ
1109	農薬濃度水質管理目標比	$\Sigma (x_i/X_i)/n \times 100$ xi: 各農薬の給水栓での年間測定最大濃度 Xi: 各農薬の管理目標値 n: 水道事業者の水質検査計画書に記載の農薬の数	0.000	%	↓	農薬の水質基準に対する検出状況を表す指標 28種類の農薬を検査
1110	重金属濃度水質基準比	$\Sigma (x_i/X_i)/6 \times 100$ xi: 各重金属の給水栓での年間測定最大濃度 Xi: 各重金属の水質基準値	10	%	↓	重金属の水質基準に対する検出状況を表す指標
1111	無機物質濃度水質基準比	$\Sigma (x_i/X_i)/6 \times 100$ xi: 各無機物質の給水栓での年間測定最大濃度 Xi: 各無機物質の水質基準値	28	%	↓	無機物質の水質基準に対する検出状況を表す指標
1112	有機物質濃度水質基準比	$\Sigma (x_i/X_i)/4 \times 100$ xi: 各有機物質の給水栓での年間測定最大濃度 Xi: 各有機物質の水質基準値	5	%	↓	有機物質の水質基準に対する検出状況を表す指標
1113	有機塩素化学物質濃度水質 基準比(%)	$\Sigma (x_i/X_i)/9 \times 100$ xi: 各有機塩素化学物質の給水栓での年間測定最大濃度 Xi: 各有機塩素化学物質の水質基準値	0	%	↓	有機塩素化学物質の水質基準に対する検出状況を表す指標
1114	消毒副生成物濃度水質基準 比(%)	$\Sigma (x_i/X_i)/5 \times 100$ xi: 各消毒副生成物の給水栓での年間測定最大濃度 Xi: 各消毒副生成物の管理目標値	4	%	↓	消毒副生成物の水質基準に対する検出状況を表す指標
1115	直結給水率	(直結給水件数/給水件数)×100	80.1	%	↑	直結給水の実施している割合
1116	活性炭投入率	(年間活性炭投入日数/年間日数)×100	0.0	%	↓	粉末活性炭の投入状況を表す指標
1117	鉛製給水管率	(鉛製給水管使用件数/給水件数)×100	22.3	%	↓	鉛製給水管の残存割合

安定：いつでもどこでも安定的に生活用水を確保

a連続した水道水の供給

コード	項目	定義(式)	指標値 平成22年度	単位	指標の見方	備考
2001	給水人口一人当たり貯留飲料水量	$[(\text{配水池総容量}(\text{緊急貯水槽容量は除く}) \times 1/2 + \text{緊急貯水槽容量}) / \text{給水人口}] \times 1,000$	145	リットル/人	↑	地震等の災害時に確保されている飲料水の量
2002	給水人口一人当たり配水量	$(\text{一日平均配水量} / \text{給水人口}) \times 1,000$	339	リットル/人		給水人口一人一日当りの水の消費量
2003	浄水予備力確保率	$[(\text{全浄水施設能力} - \text{一日最大浄水量}) / \text{全浄水施設能力}] \times 100$	29.1	%	↑	水運用の安定性、柔軟性、危機対応性を表す指標
2004	配水池貯留能力	$\text{配水池総容量} / \text{一日平均配水量}$	0.84	日	↑	給水に対する安全性、災害、事故等に対する危機対応性を表す指標
2005	給水制限数	年間給水制限日数	0	日	↓	給水サービスの安定性を表す指標
2006	普及率	$(\text{給水人口} / \text{給水区域内人口}) \times 100$	99.2	%	↑	給水サービスの普及率を表す指標
2007	配水管延長密度	$\text{配水管延長} / \text{給水区域面積}$	15.4	km/km <sup>2</sup>	↑	給水申し込みに対する物理的な利便性を表す指標
2008	水道メータ密度	$\text{水道メータ数} / \text{配水管延長}$	157	個/km		配水管の使用効率性を表す指標

b将来への備え

コード	項目	定義(式)	指標値 平成22年度	単位	指標の見方	備考
2101	経年化浄水施設率	$(\text{法定耐用年数を超えた浄水施設能力} / \text{全浄水施設能力}) \times 100$	4.0	%	↓	浄水施設の経年度を表す指標 法定耐用年数(60年)を超えている浄水施設が占める割合
2102	経年化設備率	$(\text{経年化年数を超えている電気・機械設備数} / \text{電気・機械設備の総数}) \times 100$	17.8	%	↓	電気・機械設備の経年度を表す指標 設備の種類により経年化年数(10~20年)を超えている設備が占める割合
2103	経年化管路率	$(\text{法定耐用年数を超えた管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	19.1	%	↓	管路の経年度を表す指標 法定耐用年数(40年)を超えている管路延長が占める割合
2104	管路の更新率	$(\text{更新された管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	0.32	%	↑	管路の信頼性の確保のため、取り組み状況を表す指標
2105	管路の更生率	$(\text{更生された管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	0.000	%	↑	管路の信頼性の確保のため、取り組み状況を表す指標
2106	バルブの更新率	$(\text{更新されたバルブ数} / \text{バルブ設置数}) \times 100$	0.40	%	↑	バルブの信頼性の確保のため、取り組み状況を表す指標
2107	管路の新設率	$(\text{新設管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	0.52	%		管路整備の度合いを表す指標

安定：いつでもどこでも安定的に生活用水を確保

c リスクの管理

コード	項目	定義 (式)	指標値 平成22年度	単位	指標の 見方	備考
2201	水源の水質事故数	年間水源水質事故件数	0	件	↓	水道水源の安全性を表す指標
2202	幹線管路の事故割合	(幹線管路の事故件数/幹線管路延長)×100	0.0	件/100km	↓	幹線管路の安全性を表す指標
2203	事故時配水量率	(事故時配水量/一日平均配水量)×100	116.9	%	↑	危機対応性を表す指標 最大浄水場が24時間停止した場合の配水量の割合
2204	事故時給水人口率	(事故時給水人口/給水人口)×100	27.8	%	↓	危機対応性を表す指標 最大浄水場が24時間停止した場合に影響を受ける給水人口の割合
2205	給水拠点密度	(配水池・緊急貯水槽数/給水区域面積)×100	47.4	箇所/100km <sup>2</sup>	↑	緊急時の給水利用のしやすさを表す指標
2206	系統間の原水融通率	(原水融通能力/受水側浄水能力)×100	15.0	%	↑	水運用の安定性、柔軟性、危機対応性を表す指標
2207	浄水施設耐震率	(耐震対策の施されている浄水施設能力/全浄水施設能力)×100	29.7	%	↑	浄水施設の耐震化の状況を表す指標
2208	ポンプ所耐震施設率	(耐震対策の施されているポンプ所能力/全ポンプ所能力)×100	27.1	%	↑	ポンプ所の耐震化の状況を表す指標
2209	配水池耐震施設率	(耐震対策の施されている配水池容量/配水池総容量)×100	29.1	%	↑	配水池の耐震化の状況を表す指標
2210	管路の耐震化率	(耐震管延長/管路総延長)×100	14.4	%	↑	管路の耐震化の状況を表す指標
2211	薬品備蓄日数	平均薬品貯蔵量/一日平均使用量	24.9	日		災害時等への備えを表す指標 施設毎に算出した平均値
2212	燃料備蓄日数	平均燃料貯蔵量/一日使用量	0.4	日	↑	災害時等への備えを表す指標 施設毎に算出した平均値
2213	給水車保有度	(給水車数/給水人口)×1,000	0.0086	台/1000人	↑	災害時等への備えを表す指標
2214	可搬ポリタンク・ポリバック 保有度	(可搬ポリタンク・ポリバック数/給水人口)×1,000	11.5	m <sup>3</sup> /1000人	↑	災害時等への備えを表す指標
2215	車載用の給水タンク保有 度	(車載用給水タンクの総容量/給水人口)×1,000	0.089	m <sup>3</sup> /1000人	↑	災害時等への備えを表す指標
2216	自家用発電設備容量率	(自家用発電設備容量/当該設備の電力総容量)×100	54.6	%	↑	災害時等への備えを表す指標 施設毎に算出した平均値
2217	警報付施設率	(警報付施設数/全施設数)×100	60.6	%	↑	水道施設の安全確保への取り組みを表す指標
2218	給水装置の凍結発生率	(給水装置の年間凍結件数/給水件数)×1,000	0.0	件/1000件	↓	水道の地域性を表す指標

持続：いつまでも安心できる水を安定して供給

a 地域特性にあった運営基盤の強化

コード	項目	定義 (式)	指標値 平成22年度	単位	指標の 見方	備考
3001	営業収支比率	$(\text{営業収益}/\text{営業費用}) \times 100$	134.3	%	↑	事業の収益性を表す指標
3002	経常収支比率	$[(\text{営業収益}+\text{営業外収益})/(\text{営業費用}+\text{営業外費用})] \times 100$	112.3	%	↑	事業の収益性を表す指標
3003	総収支比率	$(\text{総収益}/\text{総費用}) \times 100$	112.3	%	↑	事業の収益性を表す指標
3004	累積欠損金比率	$[\text{累積欠損金}/(\text{営業収益}-\text{受託工事収益})] \times 100$	0.0	%	↓	事業の経営状況の健全性を表す指標
3005	繰入金比率(収益的収支分)	$(\text{損益勘定繰入金}/\text{収益的収入}) \times 100$	0.0	%	↓	事業の経営状況の健全性、効率性を表す指標
3006	繰入金比率(資本的収入分)	$(\text{資本勘定繰入金}/\text{資本的収入}) \times 100$	0.0	%	↓	事業の経営状況の健全性、効率性を表す指標
3007	職員一人当たり給水収益	$(\text{給水収益}/\text{損益勘定所属職員数}) \times 1,000$	60,593	千円/人	↑	職員一人当たりの生産性を表す指標
3008	給水収益に対する職員給与費の割合	$(\text{職員給与費}/\text{給水収益}) \times 100$	14.7	%	↓	事業の収益性を表す指標
3009	給水収益に対する企業債利息の割合	$(\text{企業債利息}/\text{給水収益}) \times 100$	10.2	%	↓	事業の収益性を表す指標
3010	給水収益に対する減価償却費の割合	$(\text{減価償却費}/\text{給水収益}) \times 100$	26.5	%	↓	事業の収益性を表す指標
3011	給水収益に対する企業債償還金の割合	$(\text{企業債償還金}/\text{給水収益}) \times 100$	22.1	%	↓	財務状況の安全性を表す指標
3012	給水収益に対する企業債残高の割合	$(\text{企業債残高}/\text{給水収益}) \times 100$	396.5	%	↓	財務状況の安全性を表す指標
3013	料金回収率	$(\text{供給単価}/\text{給水原価}) \times 100$	111.5	%	↑	事業の収益性を表す指標
3014	供給単価	給水収益/有収水量	128.7	円/m <sup>3</sup>	↓	有収水量1m <sup>3</sup> 当りの収益を表す指標

3015	給水原価	[経常費用-(受託工事費+材料及び不用品売却原価+附帯事業費)]/有収水量	115.5	円/m <sup>3</sup>	↓	有収水量1m <sup>3</sup> 当りの生産コストを表す指標
3016	1箇月当たり家庭用料金(10m <sup>3</sup> )	1箇月当たりの一般家庭用(口径13mm)の基本料金+10m <sup>3</sup> 使用時の従量料金	1,029	円	↓	料金水準を表す指標
3017	1箇月当たり家庭用料金(20m <sup>3</sup> )	1箇月当たりの一般家庭用(口径13mm)の基本料金+20m <sup>3</sup> 使用時の従量料金	2,153	円	↓	料金水準を表す指標
3018	有収率	(有収水量/給水量)×100	88.1	%	↑	施設の効率性を表す指標
3019	施設利用率	(一日平均給水量/一日給水能力)×100	62.9	%	↑	施設の効率性を表す指標
3020	施設最大稼働率	(一日最大給水量/一日給水能力)×100	70.9	%	↑	施設の効率性を表す指標
3021	負荷率	(一日平均給水量/一日最大給水量)×100	88.6	%	↑	施設効率を表す指標
3022	流動比率	(流動資産/流動負債)×100	1,112.6	%	↑	短期的な支払能力から見た財務状況の安全性を表す指標
3023	自己資本構成比率	[(自己資本金+剰余金)/負債・資本合計]×100	56.9	%	↑	資本構成から見た財務状況の安全性を表す指標
3024	固定比率	[固定資産/(自己資本金+剰余金)]×100	146.1	%	↓	固定資産投資から見た財務状況の安全性を表す指標
3025	企業債償還元金対減価償却費比率	(企業債償還元金/当年度減価償却費)×100	83.6	%	↓	投下資本の回収と再投資とのバランスを見る指標
3026	固定資産回転率	(営業収益-受託工事収益)/[(期首固定資産+期末固定資産)/2]	0.12	回	↑	固定資産額に対して収益性を表す指標 施設の効率性を表す
3027	固定資産使用効率	(給水量/有形固定資産)×10000	10.5	m <sup>3</sup> /10000円	↑	年間総配水量の有形固定資産に対する割合 施設の効率性を表す

持続：いつまでも安心できる水を安定して供給

b 水道文化・技術の継承と発展

コード	項目	定義(式)	指標値 平成22年度	単位	指標の 見方	備考
3101	職員資格取得度	職員が取得している法定資格数/全職員数	1.38	件/人	↑	職員の持つ資格の取得状況を表す指標 法令で定める資格
3102	民間資格取得度	職員が取得している民間資格取得数/全職員数	0.081	件/人	↑	職員の持つ資格の取得状況を表す指標
3103	外部研修時間	(職員が外部研修を受けた時間・人数)/全職員数	4.9	時間	↑	職員の資質向上のための取り組みを表す指標
3104	内部研修時間	(職員が内部研修を受けた時間・人数)/全職員数	8.5	時間	↑	職員の資質向上のための取り組みを表す指標
3105	技術職員率	(技術職員総数/全職員数)×100	53.1	%		全職員のうち技術系職員の占める割合
3106	水道業務経験年数度	全職員の水道業務経験年数/全職員数	8.1	年/人	↑	職員の水道業務の経験年数を表す指標
3107	技術開発職員率	(技術開発業務従事職員数/全職員数)×100	0.00	%		水道の技術開発に対する人的投資の度合いを表す指標
3108	技術開発費率	(技術開発費/給水収益)×100	0.00	%		水道の技術開発に対する投資の度合いを表す指標
3109	職員一人当たり配水量	年間配水量/全職員数	541,000	m <sup>3</sup> /人	↑	水道サービスの効率性を表す指標
3110	職員一人当たりメータ数	水道メータ数/全職員数	2,299	個/人	↑	水道サービスの効率性を表す指標
3111	公傷率	[(公傷で休務した延べ人・日数)/(全職員数×年間公務日数)] ×100	0.000	%	↓	安全衛生管理に係る指標
3112	直接飲用率	(直接飲用回答数/直接飲用アンケート回数)×100	—	%	↑	アンケートにおいて水道水を直接飲用していると回答した人の割合 データなし

持続：いつまでも安心できる水を安定して供給

c 消費者ニーズをふまえた給水サービスの充実

コード	項目	定義 (式)	指標値 平成22年度	単位	指標の 見方	備考
3201	水道事業に係る情報の提供度	広報誌配布部数/給水件数	1.8	部/件	↑	広報活動の実施状況を表す指標 「くらしと水」の発行(年2回)
3202	モニタ割合	(モニタ人数/給水人口)×1,000	0.029	人/1000人	↑	広報活動の実施状況を表す指標 上下水道モニター(20名)
3203	アンケート情報収集割合	(アンケート回答数/給水人口)×1,000	0.14	人/1000人	↑	広聴活動の実施状況を表す指標 上下水道フェアで実施したアンケート調査(100名)
3204	水道施設見学者割合	(見学者数/給水人口)×1,000	4.2	人/1000人	↑	広報活動の実施状況を表す指標 水道施設の見学者数
3205	水道サービスに対する苦情割合	(水道サービス苦情件数/給水件数)×1,000	—	件/1000件	↓	消費者の満足度を表す指標 データなし
3206	水質に対する苦情割合	(水質苦情件数/給水件数)×1,000	0.17	件/1000件	↓	消費者の水質に関する満足度を表す指標
3207	水道料金に対する苦情割合	(水道料金苦情件数/給水件数)×1,000	—	件/1000件	↓	消費者の料金に関する満足度を表す指標 データなし
3208	監査請求数	年間監査請求件数	0	件		法令に基づき水道事業に関し監査請求された件数
3209	情報開示請求数	年間情報開示請求件数	51	件		法令に基づき水道事業に関し情報公開請求された件数
3210	職員一人当たり受付件数	受付件数/全職員数	2,056	件/人	↑	水道サービスの効率性を表す指標

環境：環境保全への貢献

a 地球温暖化防止や環境保全などの推進

コード	項目	定義 (式)	指標値 平成22年度	単位	指標の 見方	備考
4001	配水量1m <sup>3</sup> 当たり電力消費量	全施設の電力使用量/年間配水量	0.39	kWh/m <sup>3</sup>	↓	水道事業が環境に与える影響を表す指標
4002	配水量1m <sup>3</sup> 当たり消費エネルギー	全施設での総エネルギー消費量/年間配水量	1.41	MJ/m <sup>3</sup>	↓	水道事業が環境に与える影響を表す指標
4003	再生可能エネルギー利用率	(再生可能エネルギー設備の電力使用量/全施設の電力使用量)×100	0.12	%	↑	環境負荷低減に対する取り組みを表す指標
4004	浄水発生土の有効利用率	(有効利用土量/浄水発生土量)×100	100.0	%	↑	環境負荷低減に対する取り組みを表す指標
4005	建設副産物のリサイクル率	(リサイクルされた建設副産物量/建設副産物排出量)×100	96.0	%	↑	環境保全に対する取り組みを表す指標
4006	配水量1m <sup>3</sup> 当たり二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出量	[総二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出量/年間配水量]×10 <sup>6</sup>	185	g・CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	↓	環境負荷低減に対する取り組みを表す指標 省エネ法・温対法

b 健全な水循環

コード	項目	定義 (式)	指標値 平成22年度	単位	指標の 見方	備考
4101	地下水率	(地下水揚水量/水源利用水量)×100	65.3	%		取水量に対する地下水利用の割合を表す指標

管理：水道システムの適正な実行・業務運営及び維持管理

a 適正な実行・業務運営

コード	項目	定義 (式)	指標値 平成22年度	単位	指標の 見方	備考
5001	給水圧不適正率	$[\text{適正な範囲になかった圧力測定箇所} \cdot \text{日数} / (\text{圧力測定箇所総数} \times \text{年間日数})] \times 100$	0.00	%	↓	給水圧力が適正に確保されているかを表す指標
5002	配水池清掃実施率	$[\text{最近5年間に清掃した配水池容量} / (\text{配水池総容量} / 5)] \times 100$	340	%	↑	配水池に管理状況を表す指標
5003	年間ポンプ平均稼働率	$[\text{ポンプ運転時間の合計} / (\text{ポンプ総台数} \times \text{年間日数} \times 24)] \times 100$	29.0	%		ポンプ施設の余裕度を表す指標
5004	検針誤り割合	$(\text{誤検針件数} / \text{検針総件数}) \times 1,000$	0.02	件/1000件	↓	検針が適正に行われているかを表す指標
5005	料金請求誤り割合	$(\text{誤料金請求件数} / \text{料金請求総件数}) \times 1,000$	0.04	件/1000件	↓	料金請求が適正に行われているかを表す指標
5006	料金未納率	$(\text{年度末未納料金総額} / \text{総料金収入額}) \times 100$	3.3	%	↓	料金が適正に収納されているかを表す指標
5007	給水停止割合	$(\text{給水停止件数} / \text{給水件数}) \times 1,000$	21.6	件/1000件		給水停止の状況を表す指標
5008	検針委託率	$(\text{委託した水道メータ数} / \text{水道メータ数}) \times 100$	100.0	%	↑	検針業務委託の割合を表す指標
5009	浄水場第三者委託率	$(\text{第三者委託した浄水場能力} / \text{全浄水場能力}) \times 100$	0.0	%		法に基づく浄水場の第三者委託の割合を表す指標

管理：水道システムの適正な実行・業務運営及び維持管理

b 適正な維持管理

コード	項目	定義(式)	指標値 平成22年度	単位	指標の 見方	備考
5101	浄水場事故割合	10年間の浄水場停止事故件数/浄水場総数	2.5	10年間の件数/箇所	↓	浄水場の安定性を表す指標
5102	ダクタイル鋳鉄管・鋼管率	$[(ダクタイル鋳鉄管延長+鋼管延長)/管路総延長] \times 100$	77.9	%	↑	管路の維持管理上の容易性を表す指標
5103	管路の事故割合	$(管路の事故件数/管路総延長) \times 100$	2.8	件/100km	↓	管路の健全性を表す指標
5104	鉄製管路の事故割合	$(鉄製管路の事故件数/鉄製管路総延長) \times 100$	3.0	件/100km	↓	鉄製管路の健全性を表す指標
5105	非鉄製管路の事故割合	$(非鉄製管路の事故件数/非鉄製管路総延長) \times 100$	0.0	件/100km	↓	非鉄製管路の健全性を表す指標
5106	給水管の事故割合	$(給水管の事故件数/給水管件数) \times 1,000$	4.8	件/1000件	↓	給水管の健全性を表す指標
5107	漏水率	$(年間漏水量/年間配水量) \times 100$	4.8	%	↓	漏水の発生状況から施設の健全性を表す指標
5108	給水管件数当たり漏水量	年間漏水量/給水管件数	14.8	m <sup>3</sup> /年/件	↓	漏水の発生状況から施設の健全性を表す指標
5109	断水・濁水時間	$(断水・濁水時間 \times 断水・濁水区域給水人口) / 給水人口$	0.01	時間	↓	断水・濁水の発生状況を表す指標
5110	設備点検実施率	$(電気・計装・機械設備等の点検回数/電気・計装・機械設備の法定点検回数) \times 100$	3,811	%	↑	水道施設の維持管理の適正度を表す指標
5111	管路点検率	$(点検した管路延長/管路総延長) \times 100$	59	%	↑	管路の健全性への取り組み状況を表す指標
5112	バルブ設置密度	バルブ設置数/管路総延長	17.9	基/km	↑	配水操作の柔軟性や管路の維持管理の容易性を表す指標
5113	消火栓点検率	$(点検した消火栓数/消火栓数) \times 100$	—	%	↑	点検において消火栓の開閉は未実施(消防)
5114	消火栓設置密度	消火栓数/配水管延長	4.9	基/km	↑	管路の消防能力、危機対応能力を表す指標
5115	貯水槽水道指導率	$(貯水槽水道指導件数/貯水槽水道総数) \times 100$	57.6	%	↑	貯水槽水道に対する関与の度合いを表す指標

国際：我が国の経験の海外移転による国際貢献

a 技術の移転

コード	項目	定義 (式)	指標値 平成22年度	単位	指標の 見方	備考
6001	国際技術等協力度	人的技術等協力者数×滞在週数	0	人・週	↑	海外への技術協力の取り組み状況を表す指標

b 国際機関・諸国との交流

コード	項目	定義 (式)	指標値 平成22年度	単位	指標の 見方	備考
6101	国際交流数	年間人的交流件数	0	件	↑	国際交流の取り組み状況を表す指標